

中曽根平和研究所「デジタル技術と経済・金融」研究会
2020 年度第 1 回定例研究会（2020.6.30 開催） スクリプト
（下・議論編 2）

<岩田>

藤崎理事長からご質問というメッセージありましたのでお願いできますでしょうか。

<藤崎>

中国ができてなぜ日本ができなかったのかというご質問があったので、そのフォローアップについて質問させていただきたいと思います。

この前 5G あるいはアフター 5G について、NTT や富士通に対して 700 億円の補助金を出すということを政府が考えているという報道がございました。

(<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20200629/k10012487291000.html>)

これについて 2 つ思い出したのは、ひとつはこの程度の金額で 5G だけでなくアフター 5G についてどのぐらいの意味があるのだろうか。2 番目は補助金については WTO でも出来るだけ減らしていくという方向で日米欧は今議論しているはずでございまして、中国があまりに補助金ですべてやってきたことに対する反発があるはずなのですが、これを今度は逆に日本が追いかける形になるのかそのあたりについてはどうか。

この件について、ちょっと関心がありましたのでお答えいただければと思います。

<岩田>

多分岡野さんや私にはちょっと荷が重い質問かなと思います。

もしよろしければ N 研究委員、P 研究委員からお願いできればと思いますがいかがでしょうか。

<M 研究委員>

私の理解ではこんな風に思っているのですけどよろしいでしょうか。日本の情報通信系が遅れをとったという話。

良くも悪くも四半期決算のおかげだと思います。要するに 3 カ月ごとに成果を出さなくちゃいけない。とすると、一番簡単なのは、ソリューション的な仕事が一番成果をしやすいわけです。ということで長期の商品開発とかサービス開発というのは四半期決算には圧倒的に不利なのでみんなやりたくない方向に行きます。それが、過去 20 年間続くと、その結果、要するに外国から部品を買ってきて組み合わせてお客様に渡せばいいじゃないかと。

またこの 700 億円が、10 年間成果でなくともいいから研究しなさいとか言えばそれなりの価値はある。そうじゃなくてたとえば 5 年後ぐらいに実ビジネスを活性化するようなそういう成果を出せとか言ったら 700 億円ではとても足りないと思います。

<O 研究委員>

今 N 研究委員がおっしゃったところはまず当たっていると思います。まさにこの二十年間は短期成果を求める空気がずっとあったことは確かでございます。

あと 700 億円の価値についてですが。これは使い方で大いぶ変わるかと思います。長期的な成果をというお話も結構ですし、あとはいい人材ですね、やはりこの 5G/ポスト 5G に関するキーパーソンを集団としてキープできるような体制が作れれば大いぶいいかなと思います。

こうしたことも含めて、もうちょっと落ち着いて考える取り組みが必要かなと思っています。

<岩田>

もしよろしければ N 研究委員、D さんから、何かあればお願いします。

<N 研究委員>

非常に難しいご質問だと思います。金額 700 億円ぐらいで何ができるのかというのは本当にそういう面がありますよね。

話に出ましたプラットフォームの人達なんて本当に長い年月をかけて 1 兆円単位でお金をかけてきているような人達ですよね。そこに本当にハイスペックの人材を集めてやってきているところがありますので、一朝一夕に簡単にいく話ではやっぱりないだろうなと思っていますということですね。

ちょっと悲観的な話をすればそうですけれども、先ほど四半期決算の話が出されておりましたけれども、日本企業は長期的に見ているような感じではありながらもすごく短期志向にもあるので、もう少し我慢をすれば、ある程度の時間をかけてでも対抗していく軸を作れるのではないかと楽観的に言えば良い面はあるかと思っています。

<D 氏>

この補助金の規模がどのようなインパクトを持つかという点ですけれども、まず 5G/6G でキャッチアップするとか、そういう目的と照らし合わせると桁が一桁二桁足りないなという印象はございます。

国が補助金を出すことをやらないかという観点については、例えば米国は軍事開発の観点でさまざまな研究開発へのお金が流れている。日本ではそれに比して、研究開発への国からの支出は低い方ではございますので、それを勘案すると、こういうタイミングで出てくるというのは特段不公平があるとまでいえるかどうかは難しいところかな、と思っております。

むしろ少ないぐらいなので、市場への与えるインパクトを鑑みつつも、やはり適切に諸外国の水準に合わせていくというのは必要ではないかなと個人的には思います。

<岩田>

それでは、2 時間 10 分にわたり大変ありがとうございました。

皆さん拍手でお願いします。